

【座談会】

言語文化教育研究学会
第96回 例会

2024年5月11日
14:00-16:00

どうする？ 「ちいき」？
—結婚移住女性のLifeから考える
地域日本語教育—

福村 真紀子（茨城大学）



本日のMENU

- 1 実践の紹介
- 2 著書の紹介
- 3 座談会（グループ）
- 4 座談会（全体）



自己紹介

■ 移住の変遷

滋賀生まれ・育ち→結婚して大阪→夫の転勤で東京→自身の転職で茨城

■ 仕事・所属の変遷

一般企業正社員→海外の大学→家→一般企業アルバイト→日本語学校
→大学

■ 興味・関心

- ・ 社会（コミュニティ）での、個人としての立ち位置
- ・ 新参者と古参の者の間の関係
- ・ 人的ネットワークをつくっていくこと

アイスブレイク 「四つの部屋」

「ちいき」ってなに？

今日のテーマ、「ちいき」とは何を意味すると思いますか。

【A】

〇〇町・丁目など、
地理的な生活領域

【B】

人が所属する、
枠のあるコミュニティ
(会社・学校など)

【C】

とにかくにも
多様な複数の人と一緒に
生活する場所

【D】

その他

「日本語教育」ってなに？

下の四つの中で一番日本語教育に近い活動はどれだと思いますか？

【A】

田畑を耕す

【B】

乳幼児や高齢者の
ケア

【C】

サッカーチームの
監督

【D】

バーやスナック
での接客

実践の紹介

設立：2010年2月22日

対象者：多様な国や地域にルーツを持つ親子
(日本人親子も参加)

目的：地域の人たち同士の交流
➡裏目的には日本語教育

場所：日野市内の公共施設

活動日時：不定期

※参加人数は都度違う
(10名～、大きなイベントでは100名)

○日野市立子ども家庭支援センター「子育て支援グループ」

○日野市社会福祉協議会「ボランティア団体」

「あいあい」を作った理由

- ・小さな子どもを抱える結婚移住女性（結婚を理由に日本に移住した女性）に、子育て中の自分がオーバーラップ したこと
- ・自分が日本語教師であること



孤立

自尊感情の
喪失

活動のコアの変遷



日本語による会話



参加者がイニシアチブをとれる好きなこと・得意なこと

永遠のテーマ（課題）

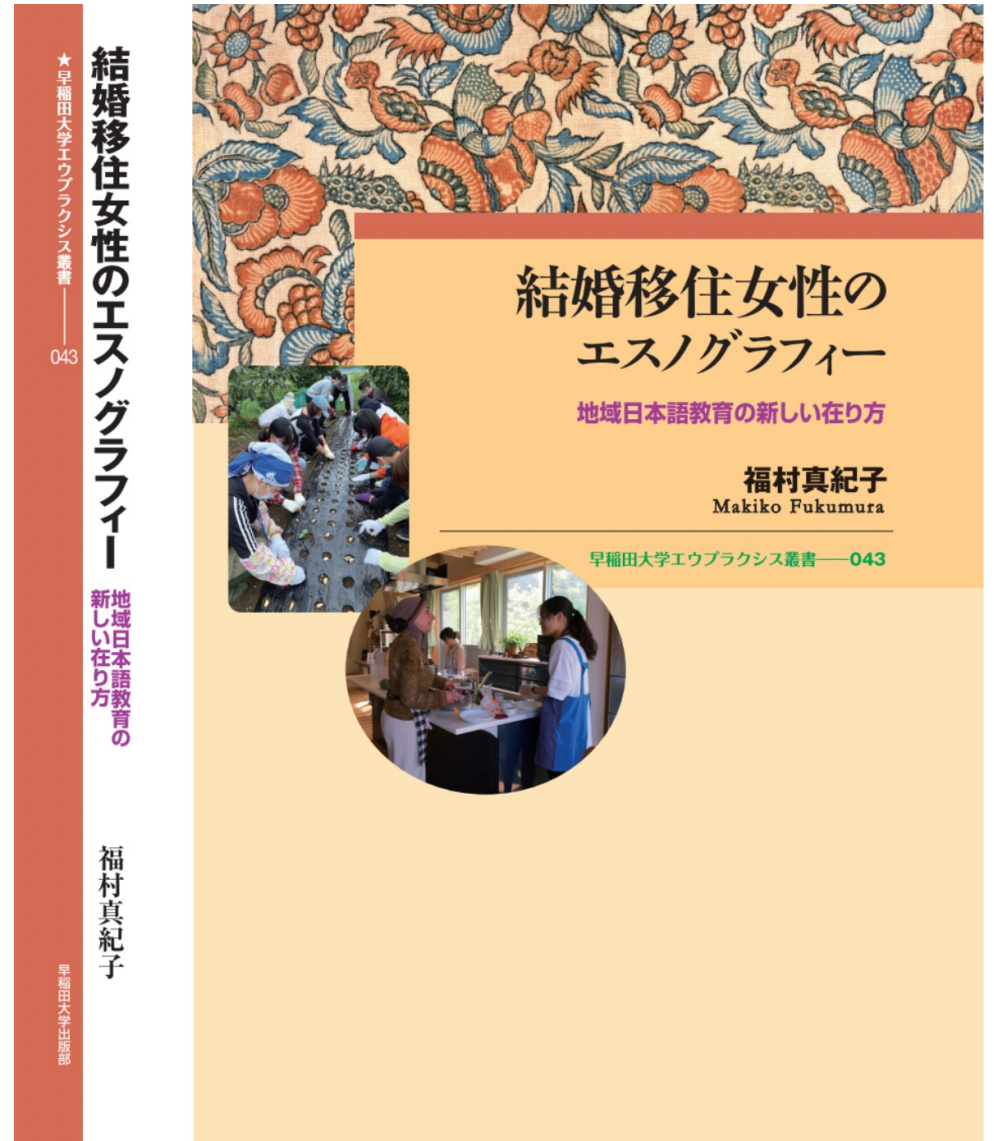
「あいあい」の実践は日本語教育なのか??

もしかして、日本語教育でなくてもよいのか??

いやいや、日本語教育の実践として示していくべきでは?

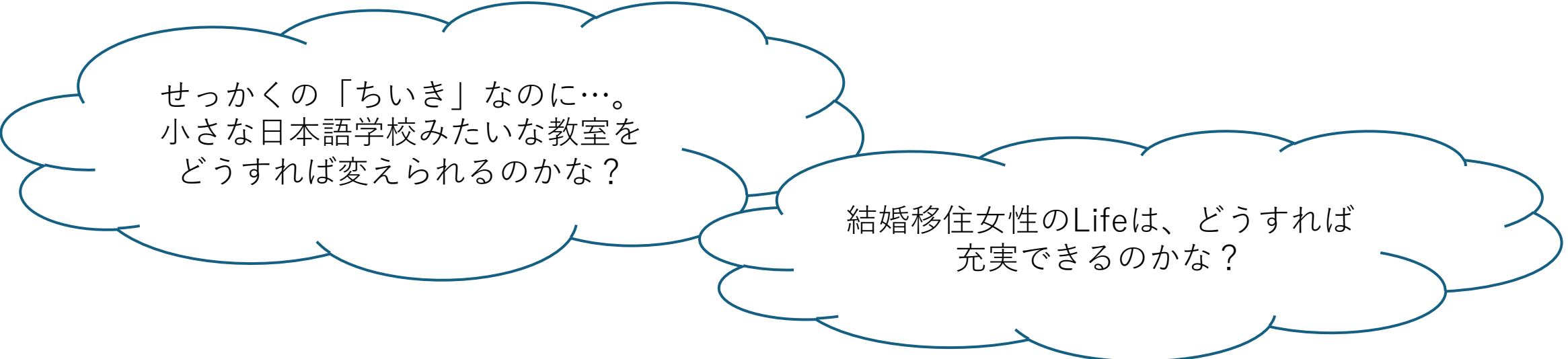
本の紹介

- ①問題意識
- ②目的
- ③研究課題
- ④私を支えた理論
- ⑤登場人物
- ⑥結論（私が言いたいこと）



①問題意識

- (1) これまでの多くの地域日本語教育の在り方
- (2) 結婚移住女性のLife（生活・人生・命）に対するモヤモヤ感



せっかくの「ちいき」なのに…。
小さな日本語学校みたいな教室を
どうすれば変えられるのかな？

結婚移住女性のLifeは、どうすれば
充実できるのかな？

②目的

地域の生活者のLifeを支える〈ことばの学び〉を促すための
新たな地域日本語教育の在り方を提言すること

生活者：日本の地域に暮らす全ての人（国籍・出身地を問わず）

Life：その人の生活・人生・次世代を含む命

ことば：「身体感覚、心の感情、論理の思考の表出過程の総体」（細川2016:7）

〈ことばの学び〉：他者とのコミュニケーションの力が育つことにより、ことばに対する意識
が変容し、ことばを自分のLifeに取り込んでいく成長のプロセス

→例：日本語のよみかきがままならなくても自分なりのよみかき力で生活
できるという自信をつける・「正しさ」にこだわらず自分なりの日本語をつ
くっていく

※細川英雄「市民性形成をめざす言語教育とは何か」細川英雄・尾辻恵美・マルチェラ、マリオッティ編『市民性形成とことばの教育－母語・第二言語・外国語を超えて』第1章、くろしお出版、2016年、2-19頁

③研究課題（段階的に生成）

研究課題 1

結婚移住女性が必要とするコミュニケーションの力とはどのような力なのか

研究課題 2

結婚移住女性のコミュニケーションの力は、
サークルに参加することでどのように育つのか

研究課題 3

結婚移住女性にとっての
「ことばの学び」とは何か

研究課題 4

日本人参加者にとっての
「ことばの学び」とは何か

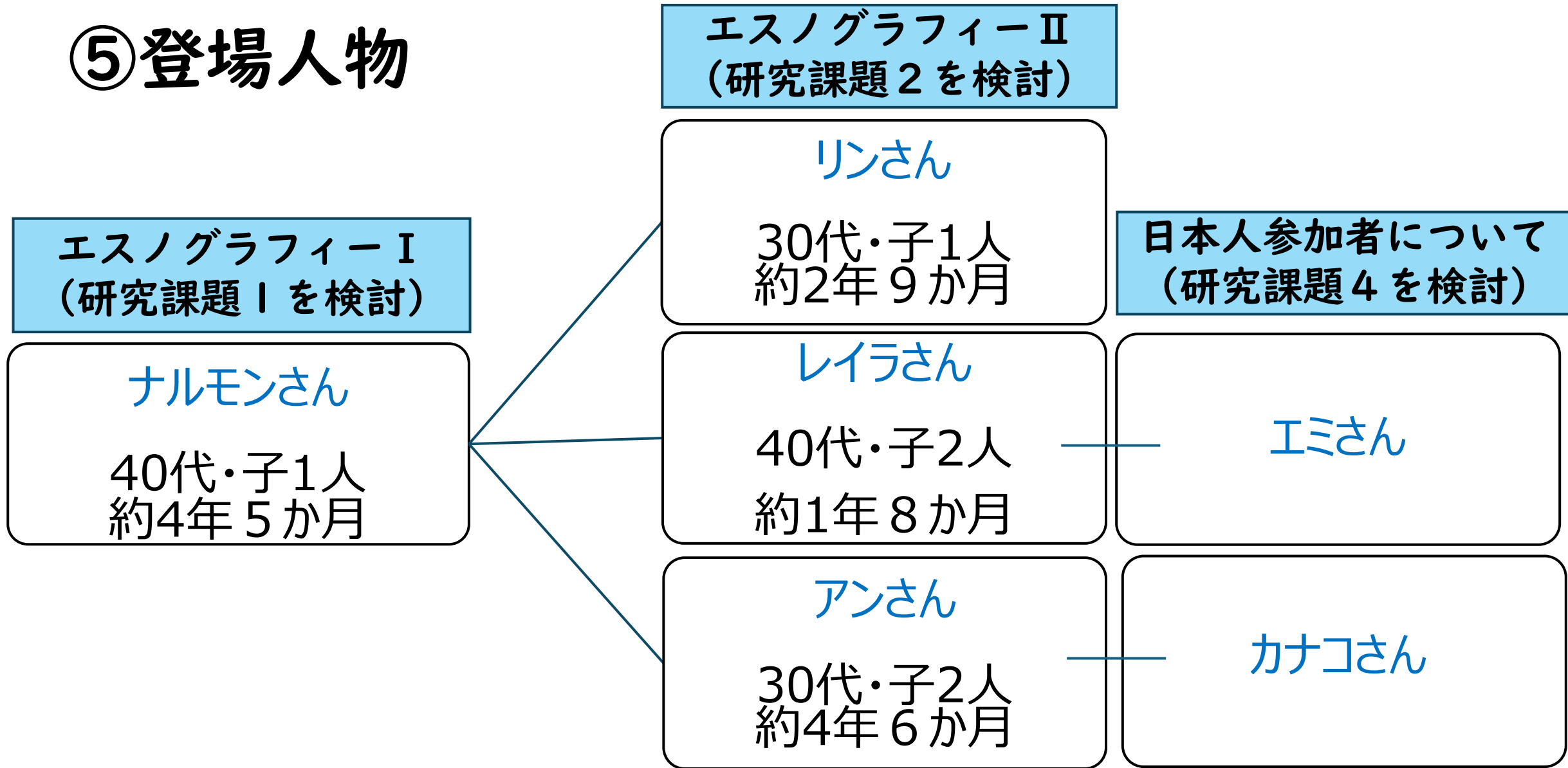
④ 私を支えた理論

① 「コミュニケーションスペース」 (田中1996)

② 「抑圧者のイデオロギー」 「対話」
(フレイレ2011)

③ 「現われ」 (アレント1994)

⑤登場人物



総調査期間：約5年3ヶ月

アジア出身の4人の結婚移住女性が抱える問題

- 〈ナルモンさん〉 日本語のリテラシー
- 〈リンさん〉 サークルにおける周辺参加
- 〈レイラさん〉 うつ病・夫以外の人とコミュニケーションをする機会がない
- 〈アンさん〉 サークル外での日本人の友達づくり

ナルモンさんのエスノグラフィーから

研究課題Ⅰ

結婚移住女性が必要とするコミュニケーションの力とはどのような力なのか

- ・家族や知人を頼る
- ・自分なりのリテラシーを生成、活性化

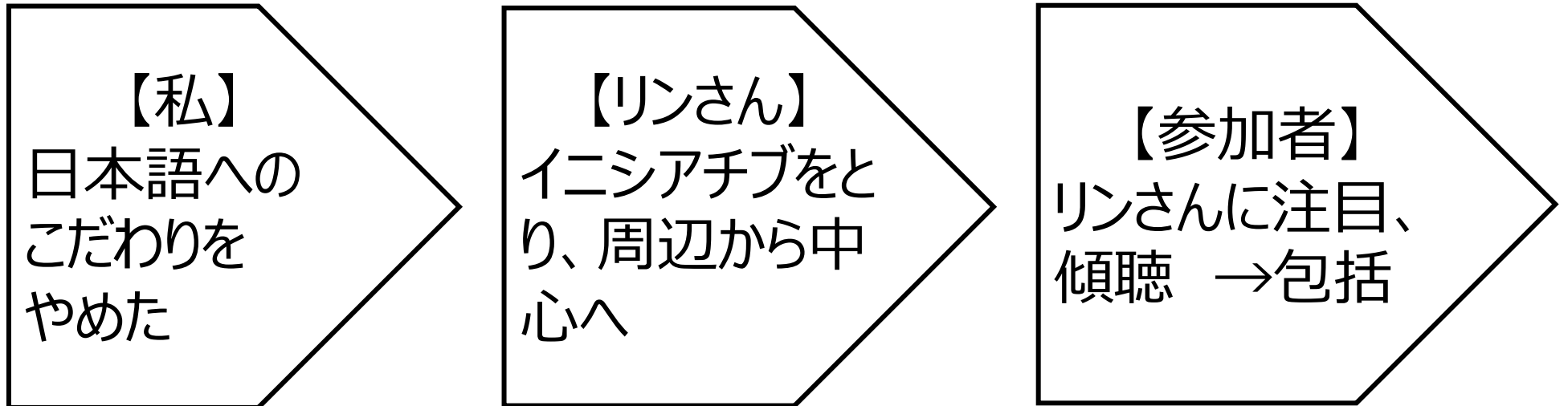
研究課題Ⅰの答え

日本語に依存しない、多様な表現方法
によるコミュニケーションの力

リンさんのエスノグラフィーから

研究課題2

結婚移住女性のコミュニケーションの力は、
サークルに参加することでどのように育つのか



研究課題2の答え

コミュニティへの周辺参加から十全参加に向かう
プロセスで、コミュニティ全体を変容させながら
コミュニケーションの力が育つ

4人のエスのグラフィーから

研究課題 3

結婚移住女性にとっての「ことばの学び」とは何か

- ・ 日本語の**カスタマイズ**（ナルモンさん）
- ・ 「**母語話者支配のイデオロギー**」からの脱却（リンさん・レイラさん）

※他にもありますが、今日はココを強調！

日本人参加者の調査から

研究課題 4

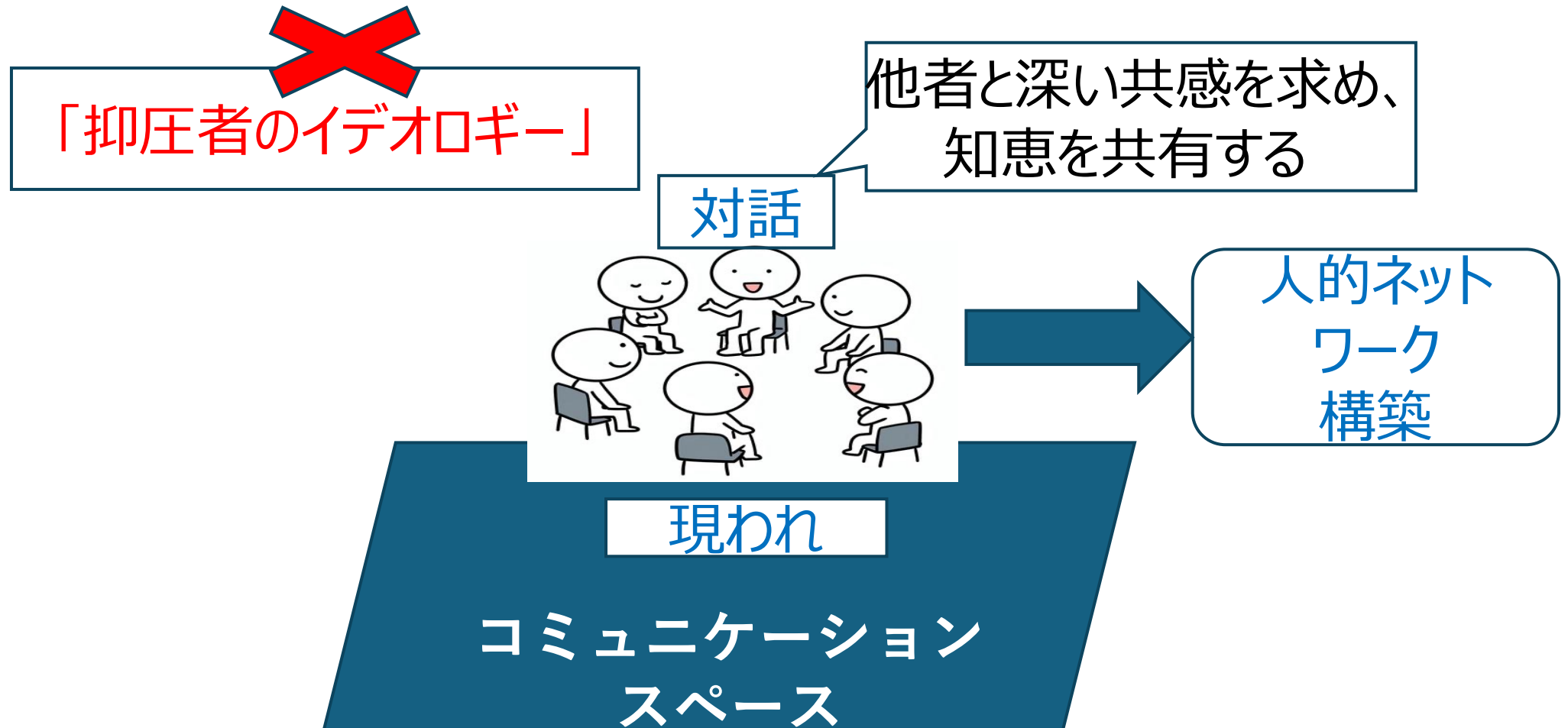
日本人参加者にとっての「ことばの学び」とは何か

「**母語話者支配のイデオロギー**」からの脱却
(→結婚移住女性と同じ)

結婚移住女性に共感
自身の持つ日本語のパワーに気づき、脱力

⑥結論（私が言いたいこと）

生活者の〈ことばの学び〉を促す地域日本語教育



地域日本語教育の在り方の提言

日本語だけをコミュニケーションの手段とする限り、
母語話者である日本人と外国語として日本語を使う外国人の間に
つねに固定した力関係が成立してしまう（田中1996：31）

「言語に依存しない」

「いろいろなかたちの作業などを行う、活動中心のコミュニケーションスペース」
（田中1996：33）

裏には
ことばの教育の仕掛け



参考文献

- アレント,ハンナ (1994) 『人間の条件』 (志水速雄 (訳)) 筑摩書房
- 田中望 (1996) 「地域社会における日本語教育」 鎌田修・山内博之 (編) 『日本語教育・異文化間コミュニケーション：教室・ホームステイ・地域を結ぶもの』 (pp.23-37) ,北海道国際交流センター
- 福村真紀子 (2016) 「地域社会はどのように『共生』を支えるのか：市民としての意識化を目指す活動へ」 細川英雄・尾辻恵美・マルチェラ,マリオッティ (編) 『市民性形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』 第6章, (pp.128-150) ,くろしお出版
- フレイレ,パウロ(2011).『被抑圧者の教育学』 (三砂ちづる (訳)) 亜紀書店

自己紹介からどうぞ!

座談会（グループ）



①地域日本語教育は誰が誰のため
になんのためにするのでしょうか?

②みなさんは、どんな地域日本語
教育があればいいと思いますか?

座談会（全体）

